

* * * *

タスマニア在住の D. A. & A. V. Ratkowsky 夫妻からタスマニア産の *Radula* (ケビラゴケ) 属苔類の標本33点が届けられた。標本から検出した7種の内、2種はタスマニアから初記録で、1種は新種であったので記載を行った。同時に、オーストラリアから記載のあった *Radula mittenii* Steph. を調べ *Radula buccinifera* (Hook. f. & Tayl.) Tayl. の異名に落した。

□飯沼愨齋生誕二百年記念のことなど Bicentennial celebration of Yokusai linuma (Tsiodjoun Ynouma, 1783-1865), the author of "Sô mokou Zoussetz" 『草木図説』の著者、飯沼愨齋 (1783. 6. 10~1865. 5. 5) 生誕二百年記念式典が本年5月27日大垣で行われる。記念事業会は1982年11月28日に北村四郎名誉会長、水野瑞夫会長、北村二郎事務局長、遠藤正治委員を選んで発足した。先に母体としての愨齋研究会が発足し、第一回は1982年4月29日に開催され、「愨齋研究会だより」No. 1 は6月15日に発行、現在No. 20 に達している。事務局は〒502 岐阜市三田洞東5-6-1 岐阜薬科大学内北村二郎宛 (電話0582-37-3931) で一般から一口金5,000円の寄附を本年4月末日まで募集、寄附者には催物の案内と記念誌の贈呈がある。

私が同研究会とおつきあいをすることになったことを記そう。1981年日本植物学会年会在岐阜で開催の際、10月3日一の宮から内藤記念くすり博物館を見学、青木允夫氏から遠藤正治氏に会うことを勧められた。4日に大垣に行き江馬家を訪問、前野良沢の門人、江馬蘭齋から6代目の当主、庄次郎氏に面会、氏の御案内で蘭齋の碑、愨齋の平林荘を見、大垣市文化会館で森清一氏に会い、江馬氏と共に愨齋の史蹟保存を御願した。午後大垣図書館の野呂鎮子さんの案内で本を見、ここで江崎俊治さんに迎えられて母上の美奈子さんの御宅に行き、愨齋の『草木図説』の色彩原図その他を拝見し、永年の希望を達した。5日、6日植物学会に出席し、7日に遠藤正治氏宅をはじめて訪問、二人で飯沼順二氏宅訪問、愨齋の多くの原図や愨齋の顕微鏡を拝見、8日名古屋動物園に行き新装なった伊藤圭介翁記念室を見学、そこで会った岡田直久氏のすすめで、圭介や愨齋をもっともよく研究された吉川芳秋氏宅を訪問し暫く話をおききした、1982年富山で日本科学史学会年会在5月29日と30日にあり、帰途岐阜により遠藤正治氏の紹介で水野瑞夫、北村二郎両氏に御会いし、愨齋研究会の話となったのであった。

(木村陽二郎 Yojiro KIMURA)